

# 熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町  
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス  
NPO法人はとやま環境フォーラム気付  
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

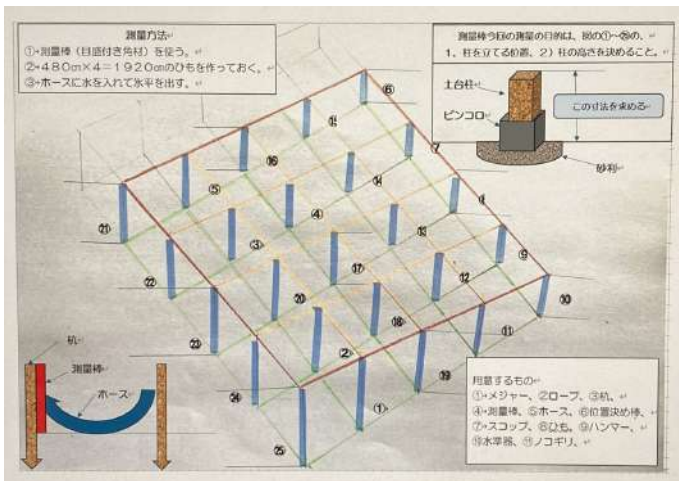
## 3月・4月の活動

### ■ ビオトープ2号地の草刈り 3月7日(土)



3月7日(土)午前9時より、ビオトープ2号地の残り半分当たる休耕地(写真の上左の葎などが繁っているところ)での草刈りを行います。この場所もビオトープ予定地としてお借りしてありますが、手が回らず、今年度は半分しか水張りができませんでした。そこで、せめて、昆虫などが身を隠せる長さを残して、ビオトープの生きもの保護と農作物の獣害対策として草刈りをします。ご協力いただける方は、ご参集ください。

### ■ 正確な図面を基に測量に再挑戦 3月7日(土)



前回(1月18日)、最終的な測量のつもりで取り組んだ測量会でしたが、結果はあえなく失敗。問題は材料についての理解不足によるものでした。竣工日程は少し遅れることになってしまいましたが、なんとか完成させたいと思います。つきましては、下記の日程にて測量に再度取り組みます。是非、ご一緒にDIYを楽しみましょう。(井田)

#### ★再測量作業日★

日時: 3月7日 午後2時より2時間程度

集合場所: 現地(ちよっくま上の共同菜園上の上方)

### ■ 定例観察会でカエル卵塊調査 3月15日(日)



3月はちょうどアカガエルの産卵シーズンです。アカガエルは熊井の森に暮らす生きものたちの重要な餌資源になっていて、石場沼の上の休耕地(湿地)でもよく

見かけました。しかし昨年春には湿地水量が激減していて、卵はほとんど見かけられなかったのが気がかりです。

石場沼の用水路に、吸盤を持たないアカガエルなどが落下した際に、たどり着いたカエルがよじ登って脱出するのを期待して、階段代わりに枯葉雨樋ネットを設置しました。カエルがいなくなるとは元も子もありません。

3月15日(日)午後2時、現地(石場沼下駐車場)集合。調査日が16日(月)に変更になることもありますので、同行を希望される方は事前にご一報ください。

## 3月・4月 活動スケジュール

3月 1日(日)	午前8時~	資源回収
7日(土)	午前9時~	ビオトープ2号地の草刈り
//	午後2時~	ウッドデッキづくり
8日(日)	午前9時半~	理事会
15日(日)	午後2時~	カエル卵塊調査
4月 5日(日)	午前8時~	資源回収
19日(日)	午前9時半~	理事会
//	午後1時半~	観察会

## 2月の活動報告

### ■毎月実施の資源回収 黙々と18年間 2月1日



環境フォーラムはNPO法人認定を受けた2008年より、鳩山町のゴルフ場1カ所で年1回、農薬成分流出の有無と程度を測る自主環境モニタリングを行ってきています。これまで18年間の調査結果から、散布計画にはなかった農薬が散布されていたことや発がん性の疑いの濃い農薬の微量流出を指摘したりして、ゴルフ場散布農薬管理の行政指導に寄与してきました。

こうした市民レベルでの自主的なゴルフ場農薬モニタリングとしては全国でも例のない活動を続けてこられたのは、毎月第1日曜日に実施している資源回収に毎月50人近くの方々に黙々と協力していただいているおかげです。当初は資源回収の収益金だけでモニタリング費用(約8万円)が賄えましたが、古紙回収業者が有料回収をやめて以降は、武州・入間川プロジェクト活動助成金で補填し、継続してきました。

現在は、鳩山町環境保全条例に基づき、ゴルフ場事業者のモニタリングのダブルチェックが可能になっており、分析データの妥当性を判断する検量線データを含め、情報公開でモニタリング結果等を入手できます。

昨年11月11日に採水したゴルフ場排水路でのサンプリングは、いずれも殺菌剤でクロロタロニル、メタラキシル、ジフェノコナゾール共に「0.001mg/L未満」でした。自然環境の保全のためには、自然・生活環境が有害な化学物質で汚染されていないことが必須条件です。これからも可能な限り、環境モニタリングは続けていこうと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

当団体発行「鳩山町町内ゴルフ場での農薬使用状況報告書」(1999年度～2023年度)の小冊子をご希望の方はご一報ください。

### ■ハト麦畑予定地のトラクター入れ 2月4日



休耕地を耕作地に戻す里山再生事業として始める「ハト麦栽培」予定地のトラクター入れを、地元の農家さんをお願いしていただきました。

この場所は、これまで4年間、毎年、奥武蔵マウンテンバイク友の会の方々と一緒に、地元の草刈りを手伝ってきた場所ですが、これからは、環境フォーラムの責任で管理するハト麦畑となります。面積は1130㎡(約1反)。カヤの刈取りはしてありましたがトラクターが入れる状態にするまでに数日かかり、ようやく、土壌の掘り起こしトラクター入れが出来ました。

### ■目からウロコのピオトープ学習会 2月7日



鳩山町中央公民館研修室で開催。参加者は12人。ピオトープとは何か、守り育てとは何か、生きものの名前と体のつくりと生態との関係とは何かを、三森典彰さんから教わりました。ピオトープとは「人と生物が我慢したりしないで共に生きれる場所」のことで、生きものを特定してその保護だけを目的にするのはピオトープではない、との講義は目からウロコ。ピオトープの説明をメダカとトンボの体の形から具体的に分かりやすく説明していただけたのも新鮮で、クイズあり、お絵かきありの面白く為になる授業で、「これで無料はすごい！」の声もありました。

### ■トラスト2号地で草刈り落葉かき 2月15日



トラスト1・2号地で草刈りと落葉かき。参加者4人。ヒコバエなどの刈取りの後、シュンランなどの草花が芽を出しやすいように枯葉を取り除いて日光が当たりやすくするための落葉かきをしました。しかしできたのはほんの一部の面積で、これで成果があれば来年のお励みに。

# ビオトープ活動の看板が出来ました！

2月14日（土）、熊井の森・石場沼下の谷津田に2つの看板を設置しました。1つは、武州・入間川プロジェクト助成金を得て行ったビオトープ1号地と、埼玉県みどりの活動支援補助金で行ったビオトープ2号地との活動概要を周知する看板。もう1枚は、サイサン環境保全基金助成を得て活動し



▲ビオトープ前の看板

たハト麦栽培用地に設置しました。

いずれも、「里山」という、雑木林と田畑とで構成され、人々が暮らしていた、生きものの多様性にも優れた里山環境（ビオトープ）の再生を目的と



▲ハト麦畑前の看板



した事業です。

看板設置は地元の方々の理解が必須ですが、「いいのができたね」とお声がけいただき、ホッとしています。

助成支援いただいた団体はもとより、看板作成に当たっては、生きものの写真を提供いただいた串田宏人さんと、

## 熊井の森／石場沼・谷津田ビオトープ

2025年度武州・入間川プロジェクト活動助成事業  
2025年度埼玉県みどりの活動支援補助事業

**NPO 法人はとやま環境フォーラムの取り組み**

◎鳩山町下熊井地区にある石場沼の谷津田休耕田の一部を「冬水田んぼ（湿地ビオトープ）」にすることで、周辺の雑木林や田畑と一帯を成す生物多様性豊かな環境づくりを行っています。

◎石場沼用水路にカエル脱出ハシゴを設置。湿地ビオトープが脱出したニホンアカガエルの産卵場所になることも期待しています。

生物調査にご協力！  
ビオトープにはいろいろな生き物が集まっています。  
見かけたら情報（写真など）をお寄せ下さい。

ショウジョウトンボ
キセキレイ

ハネコロトンボ
ニホンアカガエル

アスマヒキガエル
シュレーゲルアオガエル
サンバ

問合せ先：NPO法人はとやま環境フォーラム  
☎ 049-227-3001

## 熊井の森／石場沼・谷津田ビオトープ

2025年上期サイサン環境保全基金事業

**NPO 法人はとやま環境フォーラムの取り組み**

◎鳩山町下熊井地区にある石場沼の谷津田休耕田の一部を畑に戻し、無農薬によるハト麦栽培などを行うことで、周辺の雑木林や田畑と一帯を成す生物多様性豊かな里山環境（ビオトープ）づくりを行っています。

◎ハト麦栽培 「鳩山産はとむぎ健康茶」を出荷。ハト麦は漢方でヨクイニンと呼ばれ、体内の毒素を排泄するデトックス効果があると言われています。

現在位置

▲黄葉の熊井の森と石場沼谷津田
▲昔の足踏み式脱穀機でハト麦脱穀

問合せ先：NPO法人はとやま環境フォーラム  
☎ 049-227-3001



石場沼谷津田のドローン撮影写真を提供いただいた堀内大さんに感謝申し上げます。

（写真左・ハト麦畑現況 中・ビオトープ2号地現況、右・ビオトープ1号地現況）

馬も酔う木に惹かれて



草花の気配がまだ薄い時期ですが、馬酔木（アセビ）のつぼみがすでにこっそりと顔を出していて、もうじき咲くでしょう。こぢんまりとした低木で、つやがある常緑の葉には白い壺状の小さい花がずらりと並んでいて、静かな雰囲気漂っています。株全体の形態が美しいため、近年では室内観葉植物として大人気だそうです。

初めて馬酔木のことを知ったのはまだ大学生の頃でした。街の書店で行われた華道の講座で、台湾出身の先生が馬酔木を使っていました。馬酔木の枝の形を生かした作品がとても印象深かったです。なので、鳩山に住んでから森や公園などで馬酔木に出会うたびに嬉しく感じます。日本には馬酔木の木が多く、庭園樹木として古くは万葉時代からすでに歌人たちに親しまれていたようです。「池水に 影さへ見えて 咲き匂ふ 馬酔木の花を 袖にこき入れな」（大伴家持）、なんと情緒的な風情でしょう。

それから、馬酔木というロマンティックなネーミングにも魅力を感じます。名前の由来には諸説ありますが、葉には毒があって馬が食べると酔ったような症状が出るから「馬酔木」と命名されたようです。馬が酔ってよちよちと歩く様子が目に浮かんできて、（大変だけど）微笑ましいです。午年に馬にまつわる馬酔木のことですが、いつもより心が惹かれませんか。

（王 菲）

活動後記 ■1月22、23日、2月2、22日 ハト麦栽培予定地のカヤ始末と面積測量 ■1月29日 埼玉県主催の「みどりの活動講習会」に参加し、仲間との共同作業の秘訣をゲームを交えて学習 ■2月7日 埼玉県生態系保護協会比企支部からの熊井の森におけるアライグマ駆除の取組み要請について協議し回答 ■2月13日 ハト麦栽培計画の会議で作付株数と収穫量予測 ■2月16日



トラスト1・2号地前の休耕地を駐車場にする草刈りと新規看板設置 ■2月24日 小早川さんと上野さんのご協力、ちよっくま上の①共同菜園と②ハト麦栽培予定地の2か所のPH測定。①はPH平均5.6、②はPH 5.9。ありがとう。

森の中へ

混迷深まるタンポポ在来種と外来種の見分け



2月も終わりの冬真っ只中という時期ですが、スポット的に暖かい日が続くと、陽だまりに花が咲いているのに気が付きます。大体はオオイヌノフグリやヒメオドリコソウ、ホトケノザなどが殆どなのですが、時折タンポポの仲間が咲いていることがあります。

熊井の森周辺は環境が良いので、今では珍しくなった在来種のタンポポも見かけることができます。どこにでもあるセイヨウタンポポとの分かりやすい見分け方は、花のガクと言われている部分がまとまっていれば在来タンポポで、広がっているとセイヨウタンポポというのが一般的です。

ところが近年その見分け方が怪しくなっています。

と言うのも、昔はセイヨウタンポポには花粉が無いと言われていましたが、実はたまに花粉を作っていたため在来タンポポとの雑種が生まれてしまい、特徴が混ざったり、一見すると在来タンポポにしか見えないような個体もあるようで、厳密に見分けるためにはDNA検査などが必要だそうです。

さらには近年ニセカントウタンポポというガクがまとまっている外来種（ガクの色味で見分ける）も増えていて、タンポポの見分けは混迷を極めています。とは言え、実際に現地での調査やお散歩中の自然観察では当然DNAを使った厳密な見分けは出来ないで、全体の特徴を総合的に判断してお伝えすることが多いです。（愛場 結偉）

定例観察会のご案内

開催日：毎月第3日曜日  
 集合場所：かわせみハウス前  
 集合時間：午後1時半  
 （終わりは午後3時ごろ）



興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に午後1時に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りも一緒できます。

はとやま環境フォーラムHP➡

